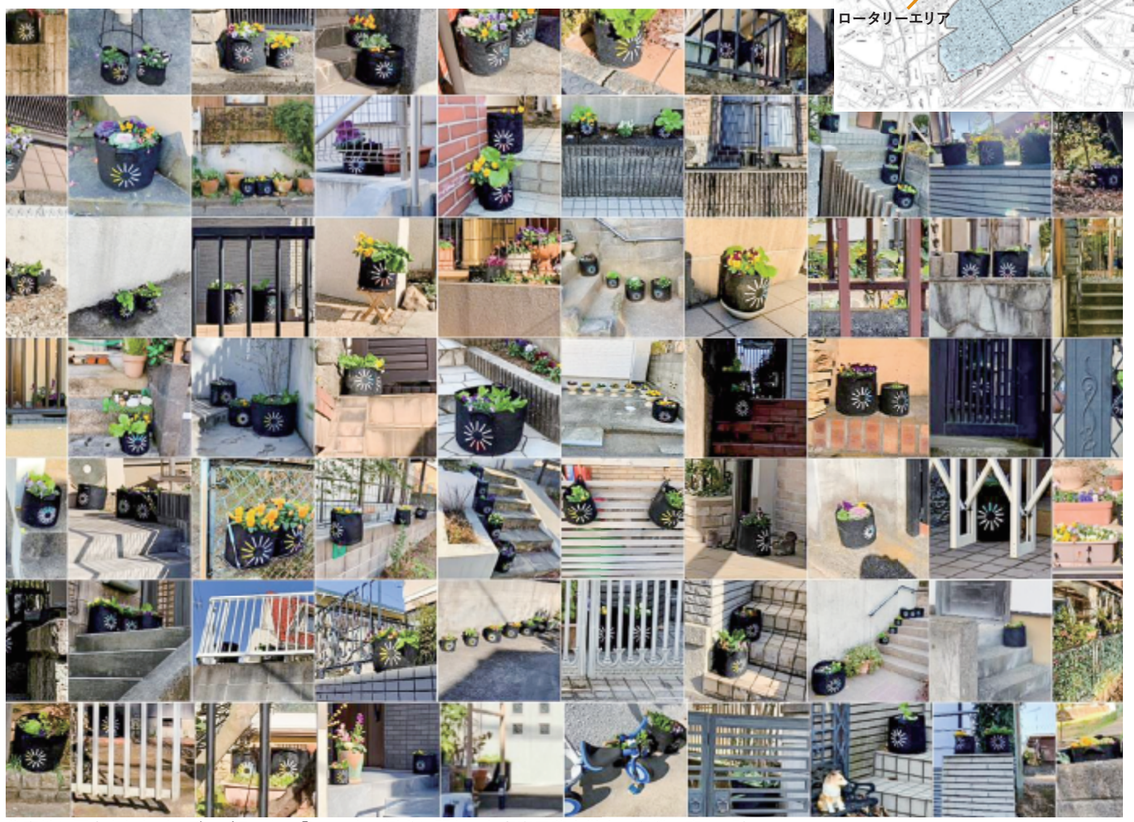
住まい活動助成

NPO法人 一期一会

神奈川県伊勢原市・厚木市

郊外戸建住宅地のロータリーエリア（中心部）活性化と空き庭の菜園利用による住宅まちづくり



住宅地に配布されたガーデンプランター「iバッグ」。活動に関わった東京工芸大学生の卒業研究より引用

団体設立経緯

NPO法人一期一会は、神奈川県伊勢原市・厚木市にまたがる「**愛甲原住宅**」で、地域住民との交流を図りながら、非営利・協同の市民事業による参加型福祉のまちづくりの推進に寄与することを目的として発足した団体です。当住宅地では、第1世代の高齢化の進行に備え、昭和60年代より第2世代を中心に福祉のまちづくりがスタートしました。

一期一会では現在、高齢居住者を対象とした**小規模多機能施設「風の丘」**（2005年）、住宅地中心部ロータリーエリアにあるショッピングセンター（SC）の空き店舗を活用した**デイサービス「デイ愛甲原」**（2003年）、多世代交流の場としての**コミュニティスペース「CoCoてらす」**（2012年）の3拠点を設置、運営しています。

活動概要と活動対象範囲

NPO法人一期一会の活動範囲である愛甲原住宅は、1966年に伊勢原市高森台（約640戸）と厚木市愛甲（約280戸）の2市にまたがり開発された、面積28.5haの戸建て住宅地です。住宅地中央の**ロータリーエリア**に位置するSC内のスーパーマーケット、当法人が運営するデイ愛甲原とCoCoてらすが、住宅地の生活拠点となっています。

コロナ禍の中で、地域交流の場CoCoてらすは一時閉鎖を余儀なくされました。その代替として、ロータリーエリアのSC内空き店舗を活用し、新旧住民間の交流空間とすること、そして、住宅地各戸にプランターを配布し、沿道や玄関先の植栽を介したコミュニケーションの契機とする活動を展開しました。

SC内にある「デイ愛甲原」と、コロナ禍で営業を休止している「CoCoテラス」

活動に至った背景

愛甲原住宅では、地域住民が世代を超えてつながり支え合う「**多世代共生**」を将来の理想像として描いています。

第1・第2世代と当NPOが地域で展開してきた**福祉のまちづくり**、当NPOと地域の大学生、団塊世代男性群の「CoCoいきましょ会」による**多世代交流のまちづくり**と、時代の要請に応じて模索してきました。現在は、住宅地に新規転入してきた第3世代となる子育て世帯も含め、安心して住み続けられる住宅地として、日常の見守りや子どもの居場所づくりが必要とされています。

高齢化率約30%、空き家率約10%となっている住宅地全体を多世代共生の場とするため、住宅地の中心部にある老朽化したSCを有効活用し、地域住民で活用できる場として手を加えることを考えました。将来的にはリノベーションなどへの展開も見込みます。

また、新たな日常の見守りネットワークとして、植栽プランターを介して住民相互の交流を促す仕組みを考案しました。

活動内容と成果

●活動内容の再検討（4月～9月）

1）コロナ禍における活動内容の再検討（Zoom会議11回）

新型コロナウイルスの流行によって、当初の計画を大きく見直す必要がありました。閉鎖中の地域交流の場CoCoてらすの代替空間として、ロータリーエリアのSCの空き店舗を活用すること、当初の活動計画であった空き庭の菜園活動（共同作業）による密を避けるため、各戸にプランターバッグを配布し住宅地沿道や玄関先の植栽を介したコミュニケーションを促進することなど、計画の変更案を作成しました。

2）ロータリーエリアの愛甲原SC内空き店舗活用計画の検討

SCオーナーと5カ月の定期建物賃貸借契約を締結。厚木市内にキャンパスを擁する東京工芸大学の建築系研究室との協力体制の下、空き店舗を「**まちづくり研究室iラボ**」と称し、プランターバッグの作成・配布、住宅地のアーカイブ展や模型展示などによる地域交流の場とする実施計画を練りました。空き店舗内の床面デッキや展示机などの配置計画、通路のコミュニケーションボードの設置などを検討しました。

●ガーデンプランター「iバッグ」の配置（10月以降）

住宅道路境界部分に**ガーデンプランター「i（アイ）バッグ」**300個を配置するための計画を立てました。これにより、住宅地全体に網を張るように植栽を点在させる目論見です。バッグのデザインの試作、育苗用土や苗の見積もりなどを入手し、試行を重ねました。

全体構想が確定した段階で、住宅地全域に、iバッグ活用住戸の参加者募集のニュースを配布しました。その後、以下のように展開していきました。

1）くらしの保健室会議（10月12日）

会場：まちづくり研究室iラボ、**参加者**：4名／iバッグの目的と活動説明、確認・協力依頼配布及び呼びかけ方を検討しました。

iバッグのデザイン。色は4色あり、設置場所が面する方角を示す

2）CoCoいきましょ会会議（10月17日）

会場：まちづくり研究室iラボ、**参加者**：5名（CoCoいきましょ会）／引き続きiバッグの目的と活動説明、確認・協力依頼配布及び呼びかけ方の検討、そしてiバッグに植える植栽の種類を相談しました。

3）ニュース配布準備（10月15日・19日）

会場：愛甲原住宅、**参加者**：風の丘利用者+職員／A3判のニュースにiバッグ申込書を挟み、1000枚分を100部単位にまとめて配布の準備をしました。

1. iバッグの製作　2. 伊勢原市内の農園で苗を育成　3. iバッグの配布受付　4. 花を介して話が弾む。画像はiバッグ配布をお知らせするニュース

4）ニュース配布（10月20日～23日）

参加者：CoCoいきましょ会メンバー、デイ愛甲原職員・利用者、学生（のべ10数名）／下記のように分担して配布しました。

・愛甲原住宅：860戸／伊勢原市側（高森台）約590戸、厚木市側（愛甲西）約270戸

・その他：伊勢原市・厚木市各地域包括支援センター、市民協働課

・愛甲原SC内、デイ愛甲原掲示板

5）ニュースの追加配布（11月11日）

厚木市側の愛甲西全戸及び高森台申し込み者の近隣に、第2次申し込みニュース400枚を配布しました。この時点の申込者数は58人、112個。

6）プランターバッグの製作（10月～11月）

iバッグペイント製作メンバー：水曜ボランティアチーム3名+くらしの保健室2名+地域住民5名+当法人2名=12名／300個ペイント完成までのべ人員数：85名／SC内の空き店舗を借り、「まちづくり研究室iラボ」として作業をしました。住宅通路の面・方角を色別に示す提案がありました。4工程の作業となり完成までの時間が足りないなどありましたが、学生案を尊重し住民と学生で知恵を出し合いました。

7）プランターの植栽・野菜の育成（10月～11月）

参加者：2名（CoCoいきましょ会）／地域住民の温室を借りて、種から苗になるまで、小松菜やほうれん草を育てました。

8）iバッグ配布準備（11月18日～21日）

参加者：CoCoいきましょ会12名+水曜チーム3名+地域住民3名+当法人2名=20名／土・苗をiバッグに植え、申し込みのあった家庭に配布する準備をしました。

9）iバッグ配布（11月～12月）

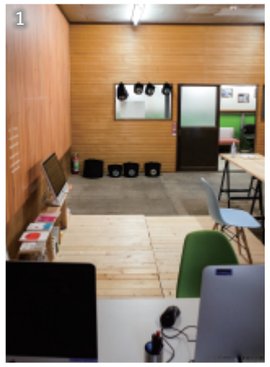
11月22日・23日、地域住民が協力して、苗を植えたiバッグをリヤカーや車で19軒のお宅に配送しました。これを皮切りにショッピングセンター前でも配布を実施し、12月10日までに、申し込みのあった300個分を配布・設置しました。

10）2021年1月～2月：iバッグの追加配布

前回の配布活動を知らなかったが、ぜひ欲しいという地域住民の要望を受け、追加の検討をしました。2月17日に再募集を告知する一期一会ニュースを全戸に配布。各戸1個の制限付きで、50個の追加分を2月20日・21日に配布しました。

【表1】iバッグの配布実績

愛甲原住宅		戸数（概数）	1回目 希望戸数	1回目 希望バッグ数	2回目 各戸1個限定 希望戸数（バッグ数）	合計 参加戸数（重複除く）	地域別参加割合
伊勢原市	高森台1丁目	240	29	76	15	35	15%
伊勢原市	高森台2丁目	220	35	83	19	41	18%
伊勢原市	高森台3丁目	130	30	61	4	30	23%
厚木市	愛甲西2丁目	270	22	55	10	27	10%
小計		860	116	275	48	133	16%
住宅地周辺			7	9	2		
協力団体ほか			—	16	—		
合計			123	300	50		



1. SC空き店舗を期間限定で改修した「iラボ」　2. 空き家マップを見る子ども　3. 住宅地の模型　4. iラボの入口にも花を置いて明るく

●「まちづくり研究室iラボ」の公開（10月～2021年2月）

SC内の空き店舗を活用した「**まちづくり研究室iラボ**」を、10月に公開。町の人が自然に通り抜ける、地域の交流空間としました。

ラボ内には、学生の研究成果である住宅地の歴史や模型などを展示。iバッグの受け取りや買い物ついでに立ち寄ってもらい、コメントを募るなどしました。ロータリーエリアのリニューアルや空き家・空き地のリノベーションについて、学生による設計提案も展示。住宅地の将来を考えるきっかけとなることを意図しました。

●活動の成果

当初の計画は、コロナ禍により方向転換を迫られました。しかし、そこで出てきた「**網状農園づくり**」というアイデアは、新旧住民間も含んだご近所同士の何気ない会話を誘発し、地域の方とのつながりが生まれました。当初から意図していた、多世代共生や見守りネットワークの実現に一歩近づく大事なステップとなりました。以下にiバッグについての主な声を振り返ってみます。

・外出先から戻ってiバッグが飾られていると、地域に「帰ってきた」と実感できる。

・コロナ禍で出かけにくくなったが、iバッグが飾ってあるお宅前を通ると親近感が湧き、町を歩く機会が増えた。

・地域内に知り合いが増えた。

・歳を取ると出会ってもなかなか仲良くなれないものだが、iバッグを通じて広がりができた。

また、以前から懸案事項でもあったロータリーエリアの活性化にあたり、短期間ではあるものの「まちづくり研究室iラボ」として活用できたことは、大きな成果です。住宅地の拠点としてのロータリーエリアの機能を検討する上で、1つのきっかけづくりとなりました。

課題と解決方策

今回、実験的に開設した「まちづくり研究室iラボ」ですが、限定期間の開室で、外部からもわかりにくい場所だったこともあり、住民の方にどの程度認識されたかは不透明です。引き続き活動していくことが必要と考えます。特に住民主体で重ねてきた地域の成り立ちについてのアーカイブは、未来に受け継いでいくべき重要な要素です。

「網状農園づくり」のiバッグ製作など一連の作業は、これまで活動してきた旧住民が中心となっていました。活動主体として次世代の活躍を促し、委ねていく体制づくりが課題です。

今後の予定

将来の「多世代共生」を実現し、持続可能な住宅地にしていくためには、幅広い層が参加できる地域活動の仕組みづくりと場づくり、その実践を重ねていくほかありません。

空間的には、住宅地の中心にあるロータリーエリアを多世代で活用できる場にする取り組みを進めていきます。また、これまで積み重ねてきた地域社会づくりの歴史を、新旧住民間で引き継ぎながら、多世代で日常生活を楽しくする主体を育てていく予定です。

特定非営利活動法人 一期一会

2005年11月法人設立／メンバー数：40人／代表者：川上 道子（かわかみ・みちこ）

●〒259-1115　神奈川県伊勢原市高森台3-10-28 風の丘（施設長 山下貴子）

☎0463-97-0015　FAX0463-97-0018　✉sho-kazenooka @ichigo-ichie.com

www.ichigo-ichie.com

私たちは、高齢者が個人の尊厳を持って暮らしていくことの支援を目指し、事業を展開しています。地域住民との交流を図りながら、非営利･協働の市民事業により「参加型福祉」のまちづくりの推進に寄与することを目的としています。